講義の風景

法学部
川上高司教授
Kawakami Takashi

「アメリカ政治論」
［水曜5限］

歴代米大統領の外交政策と戦略文化
ユニークで、密度の濃い授業

突然ですが、質問です。

Q1．アメリカの留学先のボストンでホーム・パーティに誘われた。パーティは午後7時からスタートする。どのくらいのタイミングで行くのがBEST？

(a) 5分前。
(b) 午後7時、きっかり。
(c) 5分後。

Q2．その楽しいパーティのあとかたづけ。君はどうする？

(a) 台所にいるのは悪いからそのまま見ている。
(b) 皿などを運んで、もしくは食器も洗う。
(c) パーティが終わったらすぐ帰る。

答えQ1＝C、Q2＝B。

授業の冒頭は「アメリカ常識」クイズ
学生との距離の近さを実感

これは、以前、「アメリカ政治論」の授業中に配られた「アメリカ常識Q＆A」。授業の一番初めに、アメリカに行ったときに使える常識を、クイズ形式で紹介している。これは教授が留学した経験をもとにしてつくったものだという。なかには外国人を彼氏彼女にするためのテクニックのような軟らかいクイズもある。授業の始まりから、とってもユニークだ。

《かわかみ・たかし 大阪大学国際公共政策博士。学位論文は「米軍の前方展開と日米同盟」。拓殖大学国際学部教授。アメリカの政治・安全保障政策、日米関係、国際関係論を研究。なかでも同時多発テロ以後のアメリカ、中国、朝鮮半島、日本の国防戦略・安全保障政策を分析・研究している》

水曜日5限、やや遅めの授業だが、履修生の数は多い。教室がほとんど履修生で埋め尽くされた。学生記者が授業の始まりを気にして時計を見つめていると、ブルーのシャツ、ネクタイのない姿で教授が入ってきた。

「今日は学会があるので、1時間程度、授業をします」

どうやら時計を忘れたようで、最前列に座る学生に時間を教えてほしいとこっそり話している。学生との距離の近い、フランクな先生、そんな印象を持った。今日は短い授業だから、先のようなクイズはないらしい。残念。

現実の国際政治を具体的に解説
福田首相初訪米の課題は…

そのかわり、始まりに、教授は白門祭期間中に、グアム基地を取材したことについて話してくれた。いつも、クイズの後には日本、アメリカそして国際社会の「今」の情勢を語ってくれるという。その後に通常の講義をするのだそうだ。

この日は数日後に迫った福田康夫首相の初訪米に触れ、首相が訪米したときに、米国はどのような要求をしてくるかというテーマでレクチャーした。大きく分けて4つあり、

在日米軍再編協議、新テロ対策特別措置法案、ホストネーションサポート（「有事の際に来援する同盟軍を受け入れるために装備補給・施設・輸送・労務提供などの体制を整えておくこと」＝大辞泉）、いわゆる〝おもいやり予算〟だ。そして北朝鮮問題を挙げた。

教授は早口で、学生記者はノートを取るのに必死だ。

在日米軍再編協議では、グアムへの海兵隊移転について、前防衛次官事件でこれから先行き不透明であることなどを指摘。新テロ対策特別措置法案については、「みなし否決」となって、衆議院解散・総選挙のシナリオを自民党は考えているとの見通しを示した。

また、教授は、アメリカが再びホストネーションサポートを要求するだろうとの見通しを紹介。北朝鮮問題では、北朝鮮が核設備を残したまま、アメリカは北朝鮮をテロ国家の指定から解除し、国交を回復する可能性もあるとして、日本はどのような対応をするかが迫られていると解説した。

現実の政治動向を解説

アメリカの「戦略文化」とは建国の概念は「丘の上の町」

そこで通常の講義へ。この日は、後期授業のテーマ「アメリカの戦略文化がアメリカの外交政策に及ぼした影響」が発表され、出席カードの後ろに、このテーマについての感想を書くようにと指示された。

教授の講義は、まさに〝立て板に水〟。必死で耳を傾け、メモをとった。

「戦略文化」というのは、コリン・グレーによれば、「その国が持つ固有の歴史から受けた軍事力行使に関する考え方や行動様式」である。この「戦略文化」を考えると、宗教、

後期授業のテーマを発表する川上教授

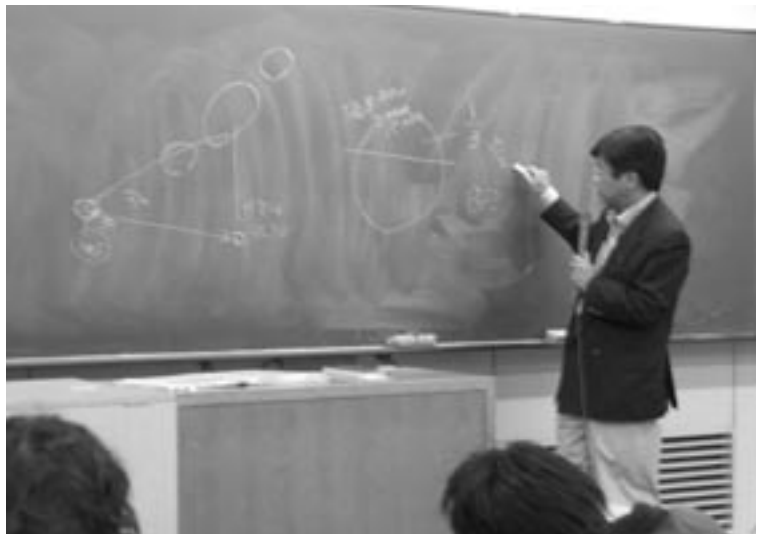
移民で成り立っているアメリカ固有の建国の歴史が紐解ける。

「戦略文化」の基礎には、建国に始まった『丘の上の町』という概念がある。メイフラワー号でピルグリムファーザーズが米大陸に渡るとき、「神の意思に適った国を建国しよう」という意志を抱いていた。『丘の上の町』とは聖書の言葉で、その意味は「どこからでも見える町＝神の意思にかなった国」という。

真剣に聞き入る学生

2つ目は、市民宗教。アメリカは建国するときに「神」を決めなかったという。ユダヤ教、カトリック、プロテスタント…移民からなる国であるため、神もさまざまだ。それをトマス・ジェファソンがどの神かを特定することなく、独立宣言で「すべての人は平等に造られ、造物主によって、一定の奪いがたい天賦の諸権利を付与され…」と述べることによって、すべてのアメリカ国民をまとめる共通の宗教的価値観を作り出した（参考：ロバートデラー『アメリカの市民宗教』）。

その他にも、「千年王国」（キリスト教終末思想）、「明白なる天命」（西漸運動での基本的概念）などが戦略文化の説明で挙げられるという。



授業の内容は濃密だ

今後の授業では、モンロー（第五代米大統領）、ウィルソン（第28代）、トルーマン（第33代）、ジョージ・W・ブッシュ（第41代）のそれぞれの外交政策を、戦略文化の視点から捉えていく。

あっという間の一時間。高校で世界史をやっていなかったら、用語でつまづいてしまう人がいるかもしれない。とにかく密度の濃い授業だ。60分という時間だったが、90分分のノートをびっしりと書き込んで教室を後にした。

（学生記者　池内真由＝法学部3年）